

被災者支援 継続へ

千葉大こころのケアチーム 清水教授、勝部市長を表敬

一 関

東日本大震災の被災地支援で一関市に臨床心理士2人を派遣している千葉大こころのケアチームの清水栄司教授は16日、市役所に勝部修市長を表敬訪問した。

同チームは同大学院医学研究子どもこころの発達研究センター長を務める精神科医の清水教授を中心に結成。県を通じ、8月から同市に女性の臨床心理士2人を派遣している。派遣期間は2012年3月まで。

赴任して以来、2人は保健師に同行して被災者の心理的影響を調べたり、職員に被災者との関わりを指導したりと積極的に支援活動を推進。職員への精神的指導、母親の育児不安の解消や精神

障害者らへの自殺予防など市民全般を対象にメンタルヘルズ活動も担っている。このほか、チームとしても市民対象の講演会に講師を派遣している。

訪れたのは清水教授と同センターの新津富央、高岡昂太両特任助教、派遣の臨床心理士の上村佐保さんと河野暁子さんの5人。

清水教授は「心の病気で仕事ができない人が増えている。メンタルケアは早期発見が大事。（派遣が終わる）3月以降も一関と交流していきたい」と継続的に支援していく意向を示した。市に専門の臨床心理士がいな

いしたい」と派遣、継続支援に感謝した。



勝部市長（右）と心のケアについて語る清水教授（右から2人目）ら